SPACE No.45

日本臨床心理身体運動学会会報第 45 号　　2025 年 6 月 20 日

編集発行　日本臨床心理身体運動学会　会長　山中康裕

【第 26 回大会特集号】

2024 年 12 月 14 日（土）・15 日（日）に宮崎大学　木花キャンパスにおきまして、「～孵化・羽化・シンカ～」をテーマに、第 26 回大会が対面及びオンラインのハイブリッド方式によって開催されました。大会実行委員長は宇土昌志先生（宮崎大学教育学部）が務められました。

一般公開シンポジウム「孵化・羽化・シンカ」には、千葉ロッテマリーンズ監督の吉井理人先生をお招きしました。本学会理事長の髙橋先生との対談ののち、他のシンポジストの先生方とも、活発なディスカッションがくりひろげられました。フロアには多くの参加者が集まり、監督のお話がひろがっていくのを熱心に聞き入っていました。

【第 26 回大会を終えて】

宇土昌志（宮崎大学）

この度は、学会員の皆様のおかげで無事に本学会大会を開催できましたこと、心より御礼申し上げます。会期中にも温かいお声がけを多く頂戴しまして、私の至らないところも多々あり申し訳なく思いますが、皆様に支えられての学会大会であること、そして、本学会がもつ厚みや力を強く感じました。誠にありがとうございました。

本学会大会は、テーマが「孵化・羽化・シンカ」という皆様のイメージの力によって成り立つ大会でしたが、皆様にとって感じるもの、得るものがございましたなら幸いです。この準備をして参りました一年を振り返ると、年が明けてつい最近、また宮崎で強い揺れの地震が起こり、昨年、準備を進める中での地震等、自然の脅威をより身近に味わってきたことが思い出されます。同時に、そうした折々にも、想い合ったり、力を合わせて乗り越えたりしていく人々のつながりを感じてきました。大会テーマの背景にあった宮崎の自然や神話について私なりに思いを馳せた一年でもありましたが、こうしたつながりは、神々が天安河原に集って話し合ったという神話を思い浮かべます。この古代より紡がれる人々の営み、そこにシンカ（こころの成熟）に通ずる手がかりがあるのかもしれないなどと妄想をいたします。加えて、宮崎の地や人を巡る中で、目に見えないものの働きに何とはなく、助けられてきたように思います。まだまだ具体的に言葉にし得ませんが、本経験を糧に、本学会の発展に寄与できるように、今後も精進して参ります。

最後に、本学会大会は実行委員会のメンバーどなたが欠けても成し得ないものでした。槇山春香副

実行委員長を始め、鶴田荘太先生、永野雅代先生、新保真一先生、中島郁子先生、北川将己先生、中島法子先生、立石芽先生、杉中星河先生、前田章先生、藤村弘美先生方のお力あっての開催でした。ご一緒できて心強く、大変光栄でした。記して感謝の意とさせていただきます。併せて、学会事務局（木立の文庫）様の多大なるご支援、並びに宮崎大学教職員、学生、他にも県内外の多くの方々のご協力があったことも、感謝を込めて申し添えさせていただきます。皆様、本当にありがとうございました。

第 26 回大会を経て、本学会がいっそうシンカしていくことを祈念いたします。

【一般研究発表を振り返って】

水島禎行（日本卓球協会）

今回の第 26 回大会にて、一般研究発表をさせて頂きました。大変貴重な機会をいただき誠に有難うございました。50 分発表、40 分質疑応答の時間配分イメージで臨みましたが、実際は冒頭の 15 分間 ZOOM で共有するパワーポイント資料の準備を行うこととなりました。座長の仁里先生の USB メモリをお借りして私自身のパソコンから資料を取り出し、大会運営のパソコンにうつして、資料をスライドショーにした上で ZOOM 共有する、という過程です。仁里先生が懇切丁寧にこの過程に付き添って下さり、またその間、指定討論者の中島先生がフロアの皆さまに対してお話しをして、場をもたせて下さっていました。今思えば、あの 15 分も含めて一般研究発表（体験）であり、私はこの 15 分を下支えに発表を行いました。

この度の発表に際し、どの選手のサポート事例にしようかと思いめぐらせている中で、ふと本事例の A 選手のことが浮かんできました。競技を終えるか、ギリギリでなんとか続けるか、といった綱渡りのような（と私は感じていた）期間に付き合い、サポートを終えたのち、ハッと気づいたら A 選手は何事もなかったかのように競技を続けていました。「あの期間はいったいなんだったんだろう？」とうっすら思ったのを思い出したのです。私が抱いた何かひっかかる感じには、私側の問題が何かありそうだが、私がいる空間の一つ上側の視点から見ないと見えてこないのではないか。そう予感しつつも、今いる空間の中で考えてきたのですが、この度の一般研究発表を通して少しだけ上側の世界に連れて行って頂けたように感じました。このわずかな時間で体験したこと、見えたこと、を大事に抱え、また、競技現場に戻りたいと思います。

【大会参加体験記】

森 ひでみ（静岡県スクールカウンセラー）

2024 年 12 月、宮崎大学で行われた第 26 回大会で事例研究発表をさせていただきました。

学会発表は初めての経験ですし、家事・育児・仕事の「三足のわらじ」を履きこなそうと日々あくせくしている自分には、とんだ高望みにも思えました。（それでもなんとか！）と一念発起したのは、この学会が「神話の地、宮崎」で開かれるからでした。私はかつて、「古事記」のアマテラスとスサノオを連想させる兄弟と出会ったことがありました。彼らの事例を宮崎大会で発表させていただくことが、何か自分にとって特別な意味を持ちそうな予感に駆り立てられたのです。

発表に先立ち、大会 2 日前に宮崎入りして神話の舞台を巡りました。高千穂では神楽も拝観しましたが、偶然にもその舞手の方々とコンビニで出くわして、会話する機会を得ました。

「昼間は百姓。わしらは何でも屋なんですよ。お客さんが神さまと出会って楽しんでくれるんなら、なんだってするんです。神主の役も、笛も舞も、御守りの売り子さんもね！」

朗らかに語る老人の瞳に、静かな誇りが光っていました。この地には「神話が生きている」し、ここの人たちは「神話を生きている」のだと感じ入る出来事でした。

大会当日は(とても緊張はしましたが)、自分らしく発表の場に臨むことができました。指定討論者の岸本寛史先生、浅田剛正先生を始め、司会の髙橋幸治先生、フロアやオンラインでコメントをくださった先生方、皆さんが事例の世界を広げ、また掘り下げてくださいました。それはまるで、発表者の描いた絵画に皆さんが思い思いの色や形を重ねていき、事例のイメージを立体造形していくような時

間でした。終盤はその造形物が自由に動き出すような感覚さえあり、発表者は不思議な高揚感を味わいました。本学会が 3 時間の事例検討を大切にし続けているからこそ味わえたものです。貴重な体験をさせていただき、事例を聞いてくださったすべての方に感謝の思いでいっぱいです。ありがとうございました。

懇親会ではスタッフの皆さんの心遣いに感動し、この場にいられる幸せに浸りました。

翌日は山中康裕先生の特別講義を拝聴しました。いつか必ず扉が開くことを信じて、岩戸の外でじっと待つ者の存在は重要です。シンカのための「内閉」の時期を守り抜く覚悟も必要です。改めて私たち心理士の役目を再確認いたしました。

飛行機の時間もあり、残念ながら全日程に参加することは叶いませんでした。それでも、子育て中だからとても無理だと思っていた学会発表を成し遂げられたのは、送り出してくれた家族と、長い道中を支えてくださった中島登代子先生のおかげです。啐啄同時とはこういうことを言うのだろうと感じました。心から感謝しています。

静岡空港に帰り着くと、初めて母の不在を経験した息子たちが駆け寄ってきました。

「ママおかえり！みやざき、おもしろかった？」

あはれ、 あなおもしろ、 あなたのし、 あなさやけ、おけ。(「古語拾遺」より)

「面白い」の語源は、岩戸が開いて光が戻ったことで、神々の顔が白く照らされ喜びに輝いた様子からきているという説があるそうです。

たとえ岩戸にこもろうとも、「内閉」を存分にやり切った後に、人は何度でも「孵化・羽化・シンカ」していく可能性を秘めています。だから人生は面白い。そのことを、心と身体と自分の全てで味わった学会大会でした。

「うん！宮崎、めっちゃ面白かったよ。」

編集後記

宮崎は確かに遠かったですが、学会は日常から離れるからこそ、時間に縛られず学会時間の中でそれぞれのケースや研究の世界に浸り、クライエントやセラピスト、そして研究者などの方々の想いに心を寄せることが出来るようにも思います。逆に、オンラインの先生は日常との切り離しをどのようにされているのか、とも思います。またそのようなご意見もいただけると有難いです。

(仁里)

SPACE　No.45
日本臨床心理身体運動学会　会報第 45 号
2025 年 6 月 20 日発行
日本臨床心理身体運動学会
会　長　山中康裕
編集責任　仁里文美
事務局　〒600-8449
京都市下京区新町通松原下ル富永町 107-1
株式会社 木立の文庫内
TEL：075-585-5277
FAX：075-320-3664
E-mail：office@rinsinsin.jp